

# くろつち便り

## 今月の内容

被爆者追悼祈念集会(8/9)／金曜集会(8/2)  
 家族訴訟問題・徳田弁護士講演会(8/23)  
 共助会教育講演会(8/24)／野草折々-28-  
 くろつち会作品展／支部大掃除(7/27)  
 (ほっとする話)奇妙なおじさん／他



↑会報QRコード

## 第74回広島・長崎原爆被爆者追悼祈念集会

8月9日、毎年イベント前広場で祈念集会をしています。今年は精霊の涙雨が落ちてくる中、行われました。

(松下代表)安倍はこの7年間何をしてきたのか。参院戦では辛うじて改悪できない状況を作れたが、予断を許さない。



(上園さん)親父は抑留された。上の人達が自分たちの安泰のために、裏取引をして軍人が抑留された。今と同じで、頭のいい人達は国民のことは考えない。



(野間さん)この前の肝付町での「核のゴミ講演会」は40名ぐらいたくざいを目指していたけど、80名ぐらいたくざい集まりました。「拒否条例」をせび鹿屋でも取り組んでもらいたくざい。

原爆投下の時刻11時2分、遠くからサイレンの音が響いてきました。それに合わせて、全員で黙祷を捧げました。



サイレンの音に合わせて全員で鎮魂の黙祷

### 茶園さんの感想

(茶園さん)広島市長は広島に中国電力本社があるせいか、反核は言うが、反原発は言わなかった。



上山四郎さんが「来年も継続していきますので、みなさん元気で」と会を締めくくりました。(文責 榎園)



(上山陸三さん)1981年「大隅市民の会」を結成。その10年後から毎年この日に、祈念集会を開いてきました。

(柴上市議)8月6日の広島での総理の挨拶には、心がこもっていませんでした。



## 家族訴訟が問かけるもの

24日、敬愛園公会堂で「共に歩む会」発足20周年を記念して、徳田靖之弁護士が表題について講演されました。先生の話では、親や家族がハンセン病と分かると普通の「家族」を築けず、18年前にあの画期的な熊本地裁判決があつたにも関わらず、離婚など今も精神的苦痛を強いられる人達が多そうです。少なくとも60年以降には国が何か施すべきところ、何もしてこなかった作為義務違反、そのことが差別を助長してきたわけです。18年前の判決では、社会の加害構造を解明していなくて、そのために、黒川温泉宿泊拒否事件が象徴的ですが、社会の中に偏見差別が残ったままになっていました。いじめの一番

現場は学校だった、と指摘されましたが、そういった偏見差別の社会的構造が今回の家族訴訟判決の中で明らかにされました。先生は「正しい知識の普及運動は何か役立っていない」と言われ、私たち一人一人が、加害者であつたという自覚があるかどうか問われていると強調されました。最後にハンセン病問題を通して学んだこととして、一つ目は、救うという意識の差別性です。「救う」という中に「自分は差別される側ではない」という心があり、そこに差別の萌芽があるという、これは身につきまされました。二つ目は、上野さんや多くの方々と出会うって「人間ってすばらしい」ということ



「人間ってすばらしい」

また全面解決には至っていませんが、内容の濃い講演でした。

## 7/27 支部大掃除

今年の支部大掃除は、参院選が絡んで、例年からすると、1週間遅れでした。現職組は、えびの集会か何かで、また退職組も忙しい人が多く、事前に済ませた方もいたのでしょうか。当日はいつもよりは人数が少なめ。それでも2時間後には、支部もすっきりした姿になりました。ただ数十メートル先の駐車場は、もう少し手入れが必要かな。



### 作品展出品

11月1～5日の作品展に向けて、準備が進んでいます。出品を予定している方、まだ出品票を出していない方、事務局長の野間さんまで連絡ください。TEL 080-5257-0311

## 反戦反核を目指して

8.9追悼祈念集会の他にも、次のような行動をしてきました。

- KC130訓練飛行反対集会  
 7/30 8/2 集会所に中止の連絡  
 8/23 14時 中止(新聞報道)  
 8/28 20時~21時、中止(市HP)  
 7/31 OSPRAY配備反対集会

選ばれた人達30名ほどがオスプレイ見学。但し騒音の激しい場面を体験するのではなく、負の情報は公開されず。

8/2 久々の金曜集会。平和を

憲法を守れ！と訴えました。次回  
は9月6日です。



子ども達

大久保小学校(新宿)は、親の都合で日本で暮らす子ども達を多く受け入れているという。そこでの先生の実践を踏まえての講演でした。「だれもが共に泣き、共に笑いあう、そんな世の中が来ないものか(善元)」を元として、子ども達

に自国の文化を大切にすることを意識を持たせようとしていて、まさに多文化共生教育です。印象的だったのは「日本の教育がだめになったのは、法律で『学力』を決めた時からだ」という指摘。そんな学力ではなく、これからは「教える」から「学び」へ、つまり「どうやって学ぶか」が大切だと話されました。例えば一陸に進出した鯨はなぜ海に戻ったのかの授業はいい例で、授業を通して、自分の将来を自ら考える大切さを考えさせていました。子ども達の詩も紹介されました。子ども達の思いをくみ取り、子ども達の言葉を大切にしてもらえるなあ、という感じでした。そのことが、多文化共生教育のベースになるんだらうと思います。

(文責 樋園)

## 共助会講演会

23日、共助会の講演会。講師、善元幸夫先生(東京大学非常勤講師)、演題は「おもしくろ(おもしろい学校じゃない)でした。共助会百周年記念行事の一つといつては、参加者の中、飯山さんら、くろつち会員も多かったです。(参加者匿名)

なげ海に戻ったのかの授業はいい例で、授業を通して、自分の将来を自ら考える大切さを考えさせていました。子ども達の詩も紹介されました。子ども達の思いをくみ取り、子ども達の言葉を大切にしてもらえるなあ、という感じでした。そのことが、多文化共生教育のベースになるんだらうと思います。

## ほっとする話「奇妙なおじさん」

犬を飼うのはもうこりごりと言う妻には内緒で、犬を探していた。捨て犬でもいい。遠方の保健所には保護された犬がいるのだが、近くの保健所にはなかなかいない。

ところが運よく、昨年夏の終わり、笠野原の人から犬をもらい受けることができた。連れ合いももう諦め顔。ダッパー、当時5才の超小型犬。

ミニチュアダック、スフントとトイプードルとの交雑種、ま



さしくlapdog(ラップドッグ)膝犬)である。落ち着きがなく、お手もできない。餌で釣って、ようやくお座りできるようになった。餌を持って行くと、喜びを全身で表して「お座り！」と言うまでぴょんぴょん飛び跳ねている。名をクル、改めクロ。遊びたいという意思表示だが、尾を振りながら、困ったことに誰にでも吠えながら駆け寄る。ほら、クラスに10人いたとして、必ずこんな天真爛漫、落ち着きのない子が一人や二人いたもんでしょ。ところがそんな子、妙に可愛いもんで、このクロもそうだ。

1日に4~5回、1回当たり十分程度、外に連れ出す。ふつづつ小犬に話しかけながら、主客転倒、小犬に引っ張られ振り回され、右に左に、前に進んだり後戻ったり、登下校中の子には「奇妙なおじさん」と思われているに相違ない。そう思われても平気な年になったということだろう。

どう思われようと、禅語の「心外無法(しんげむほう--気持ちは自分次第だ)」の心境だが、部屋に籠もりつきりになりがちな自分としては、息抜きのつもりでいる。・・・さて、そろそろ息抜きタイムかな。(文責 樋園)

## 野草折々-28-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ。今回は、

### タカサゴユリ (ユリ科)

テッポウユリにそっくりな台湾原産のユリ。戦後、内之浦あたりで見かけられ、内之浦百合とも呼ばれていた。繁殖力が強く、いまでは何処でも見られるようになった。

写真は2019年8月20日鹿屋市川西町

